

「岡山電気軌道」は お手伝いします!

9月12日、岡山電気軌道株式会社 代表取締役専務 礒野省吾氏は、神田孝次北見市長宛の「ふるさと銀河線に対する弊社の見解」を発表しました。「見解全体を精読したうえで岡山電気軌道の真意を理解し

てほしい」(17日同専務電話)のご希望により、以下、全文を掲載します。
2005年9月20日

ふるさと銀河線再生ネットワーク 代表 下斗米ミチ

平成17年9月12日

北見市長 神田孝次 様
(北海道ちほく高原鉄道(株)社長)

岡山電気軌道株式会社
代表取締役専務 礒野省吾

ふるさと銀河線に対する弊社の見解について

拝啓

貴市ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、先般、ふるさと銀河線再生ネットワークの方々から、御社ふるさと銀河線の継承につきまして、要請の打診を頂きました件につきまして、現段階での見解を述べさせていただければと存じます。

弊社としましては、沿線自治体のすべての首長及び議会の方々、住民の熱意、自治体の応分の負担、御社の存続させたいと思う強い気持ちがある、ということをお大前提とさせていただいた上で、存続させることのお手伝いができる可能性もあります。ということを確認させて頂きました。この判断の元には再生ネットワーク様からご提示されました各種資料を一読させていただき、コスト削減については、まだまだ可能性があるかと推察致しましたことが理由でございます。

しかしながら、存続するために国等への支援、沿線住民への理解を得るために財務状況をオープンにして、地元説明を頻繁に行ってこられた経緯と、給与水準も高くなく、毎年の乗客減の続く中でこれまでよく存続されてこられたことと御社に対しまして敬意を表しております。その上での存続断念は、同じ鉄軌道事業者として苦渋の決断だったのではと推察致します。

残念ながら、公的支援額が利用者便益、交通事故の軽減、CO2排出削減、道路混雑の緩和等よりも上回るものと判断されたものと理解させて頂きました。

これまでの北海道及び沿線自治体首長の協議経過から勘案いたしますと、現段階で北海道ちほく高原鉄道株式会社を弊社が継承することは大変困難なものだと考えております。

この機会に、鉄軌道の存続一点についてでなく、街づくりも含めて

検討するチャンスととらえ、地元住民、地元企業、地元自治体が一体となり、残すにしても、やめるにしても、今一度、そこに暮らす方々で充分論議を尽くされる事が必要とされているのではないかと存じます。

弊社と致しましては、地球環境保護の面から、また少子高齢社会へ対応するための公共交通機関の使命として、大量輸送機関である鉄軌道事業は将来必ず必要とされる時が来るとの信念から、また、昭和40年代に起こった路面電車の廃止の波に巻き込まれた経験から、一端廃止した線路の復活が困難を極める現状を鑑み、全国の廃止案の浮上している地方鉄軌道業者の再生にお手伝い出来る事があればご協力させていただくことがまもなく創業100年を迎える事業者としての責務と考え、今後も活動を続けてまいる所存でございます。

貴市のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具

銀河線再生署名にご協力を!

「銀河線が廃止されるなら、わが身もこの世から消し去りたい」

これが沿線住民の方々の心からの叫びです。黙っていても鉄路がはがされます。私たちの声を岡山電気軌道(株)、ちほく高原鉄道、北海道運輸局に届けましょう。この署名にご協力ください。

署名を集める活動にご協力いただける方はお知らせください。用紙を送ります。

署名集約第1次9/25、第2次10/5

ふるさと銀河線再生ネットワーク事務局

〔 留辺蘂町字上町132 中川方 〕
電話・FAX0157-42-3769